

# 広 大 生 は い ま

学生生活実態調査専門委員会委員長 中 谷 喜一郎

## はじめに

「本学は、東広島市への統合移転を推進中であり、既に3学部が移転を完了している。今後の移転を推進するに当たって、既に移転した学部の状況や今後移転する学部の学生の要望・意識は十分考慮されなければならないことはいまでもない。

本学において、これまで全学的な学生の実態調査が実施されていなかったこともあり、学生・厚生両委員会は、学生生活の実態を調査し、東広島市への移転に伴う学生の生活環境の変化等を把握することが必要であると判断し、この調査を企画・実施した。

この調査により、多くの方に学生の実態を理解していただきたいとともに、今後の移転を進めるに当たって十分活用されることを期待するものである。

本稿では、移転に関する事項を中心にその概要を紹介することとしたい。

## 調査の時期

この調査は、平成2年7月各学部・研究科において実施した。

## 調査対象と方法

この調査は、平成2年5月1日現在本学に在学する学部学生、第二部に所属する学生及び大学院生（いずれも休学者を除く。）を対象として実施した。

## 在籍者数・有効回答数

学部学生の有効回答数は3,753人で、在学者に対する比率は34.8%である。

## 現住所と通学方法

### 1 現住所の状況

●東広島市には22%が在住

今回の調査で回答があった学生の現住所は、広島市が66.6%で、東広島市が22.0%となっている。

西条地区に移転した学部学生（3・4年次生）のうち、教育学部が63.4%、工学部が89.1%、生物生産学部が90.5%の学生が東広島市に住んでいる。

### 2 通学方法

●西条地区は自動車通学が5割

通学方法として最も多いのは「自転車」通

〔現住所の状況〕

〔単位 人 (%)〕

	全 体	学 部 別										
		総 合	文	教 育	学 教	法	経 済	理	医	歯	工	生 物
広島市	2,498 (66.6)	198 (82.8)	126 (78.3)	271 (37.7)	236 (88.7)	163 (85.8)	134 (87.6)	495 (86.8)	279 (87.7)	131 (91.6)	362 (55.3)	103 (30.3)
東広島市	825 (22.0)	1 (0.4)	4 (2.5)	365 (50.8)	3 (1.1)	1 (0.5)	2 (1.3)	7 (1.2)	4 (1.3)	0 (0.0)	227 (34.7)	211 (62.1)
その他	428 (11.4)	40 (16.7)	31 (19.3)	81 (11.3)	27 (10.2)	26 (13.7)	17 (11.1)	68 (11.9)	35 (11.0)	12 (8.4)	65 (9.9)	26 (7.6)
無効	2 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.2)	0 (0.0)
合 計	3,753 (100.0)	239 (100.0)	161 (100.0)	718 (100.0)	266 (100.0)	190 (100.0)	153 (100.0)	570 (100.0)	318 (100.0)	143 (100.0)	655 (100.0)	340 (100.0)

(注) 広島市は、南区、中区、西区、東区、安芸郡府中町のみを示す。

学で61.9%，次いで「バイク」通学が25.4%，「自動車」通学が19.9%，以下「市内電車」での通学が12.2%，「徒歩」が11.6%，「バス（西条地区以外）」通学が9.3%となっている。学年が高くなるに従い，自転車通学からバイクや自動車通学に変わっているのが大きな特

徴となっている。

特に，西条地区の学生の通学方法は「バイク」通学が34.8%，「自動車」通学が54.7%となっており，バイク・自動車による通学の比率は，他のキャンパスに比べかなり高くなっている。このことは，今後他の学部が移

〔通学方法〕 (利用する全ての交通機関を複数回答)

(単位 人 (%))

	全 体	男 女 別		学 年 別				キャンパス別					
		男	女	1 年	2 年	3 年	4 年	西 条	東千田	霞	東 雲	その他	無 効
J R	365 (9.7)	164 (6.7)	201 (15.5)	75 (11.1)	99 (11.2)	80 (7.2)	102 (10.6)	130 (13.1)	191 (9.1)	15 (4.6)	21 (8.3)	0 (0.0)	8 (11.9)
広 電 宮 島 線	48 (1.3)	18 (0.7)	30 (2.3)	18 (2.7)	12 (1.4)	11 (0.9)	7 (0.7)	5 (0.5)	40 (1.9)	1 (0.3)	2 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
市 内 電 車	457 (12.2)	244 (9.9)	213 (16.5)	150 (22.2)	134 (15.2)	104 (8.4)	69 (7.2)	30 (3.0)	400 (19.0)	2 (0.6)	14 (5.5)	0 (0.0)	11 (16.4)
バ ス (西条地区で利用)	167 (4.4)	49 (2.0)	118 (9.1)	5 (0.7)	34 (3.9)	51 (4.1)	77 (8.0)	140 (14.1)	15 (0.7)	2 (0.6)	5 (2.0)	1 (16.7)	4 (6.0)
バ ス (西条地区以外で利用)	348 (9.3)	170 (6.9)	178 (13.8)	88 (13.0)	107 (12.1)	95 (7.7)	58 (6.0)	17 (1.7)	255 (12.1)	21 (6.4)	45 (17.8)	0 (0.0)	10 (14.9)
自 転 車	2,322 (61.9)	1,472 (59.9)	850 (65.7)	528 (78.1)	648 (73.5)	680 (55.1)	466 (48.5)	266 (26.8)	1,588 (75.4)	229 (70.0)	200 (79.1)	4 (66.7)	35 (52.2)
バ イ ク (自動2輪, 原付)	954 (25.4)	779 (31.7)	175 (13.5)	88 (13.0)	216 (24.5)	393 (31.8)	257 (26.8)	346 (34.8)	464 (22.0)	70 (21.4)	54 (21.3)	1 (16.7)	19 (28.4)
自 動 車	746 (19.9)	542 (22.0)	204 (15.8)	22 (3.3)	73 (8.3)	326 (26.4)	325 (33.9)	543 (54.7)	114 (5.4)	51 (15.6)	23 (9.1)	1 (16.7)	14 (20.9)
船	7 (0.2)	4 (0.2)	3 (0.2)	1 (0.1)	0 (0.0)	4 (0.3)	2 (0.2)	1 (0.1)	6 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
徒 歩 の み	436 (11.6)	263 (10.7)	173 (13.4)	64 (9.5)	85 (9.6)	156 (12.6)	131 (13.6)	77 (7.8)	262 (12.4)	55 (16.8)	35 (13.8)	0 (0.0)	7 (10.4)
そ の 他	20 (0.5)	8 (0.3)	12 (0.9)	5 (0.7)	4 (0.5)	7 (0.6)	4 (0.4)	9 (0.9)	7 (0.3)	3 (0.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.5)
無 効	2 (0.1)	2 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.2)	0 (0.0)	1 (0.1)	1 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
合 計 (実 回 答 人 員)	3,753 (100.0)	2,459 (100.0)	1,294 (100.0)	676 (100.0)	882 (100.0)	1,235 (100.0)	960 (100.0)	993 (100.0)	2,107 (100.0)	327 (100.0)	253 (100.0)	6 (100.0)	67 (100.0)

〔交通事故にあったときの状況〕

(単位 人 (%))

	全 体	男 女 別		キャンパス別					
		男	女	西 条	東千田	霞	東 雲	その他	無 効
通学途上	185 (30.7)	133 (28.5)	52 (38.2)	53 (23.9)	90 (34.2)	21 (32.3)	11 (30.6)	1 (50.0)	9 (60.0)
構内移動中	7 (1.2)	6 (1.3)	1 (0.7)	5 (2.3)	0 (0.0)	1 (1.5)	1 (2.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
校外実習中及び実習に参加するため移動中	2 (0.3)	2 (0.4)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
課外活動中及び課外活動参加のため移動中	66 (10.9)	47 (10.1)	19 (14.0)	35 (15.8)	25 (9.5)	1 (1.5)	4 (11.1)	0 (0.0)	1 (6.7)
アルバイト中及びアルバイトのため移動中	86 (14.3)	66 (14.1)	20 (14.7)	25 (11.3)	44 (16.7)	7 (10.8)	8 (22.2)	0 (0.0)	2 (13.3)
レジャー・旅行の期間中	252 (41.8)	209 (44.8)	43 (31.6)	103 (46.4)	102 (38.8)	31 (47.7)	12 (33.3)	1 (50.0)	3 (20.0)
その他の期間中	1 (0.2)	1 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
無 効	4 (0.7)	3 (0.6)	1 (0.7)	0 (0.0)	2 (0.8)	2 (3.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
合 計	603 (100.0)	467 (100.0)	136 (100.0)	222 (100.0)	263 (100.0)	65 (100.0)	36 (100.0)	2 (100.0)	15 (100.0)

〔住居区分〕

〔単位 人(%)〕

	全 体	男 女 別		キャンパス 別					
		男	女	西 条	東千田	霞	東 雲	その他	無 効
自 宅	698 (18.6)	394 (16.0)	304 (23.5)	106 (10.7)	466 (22.1)	68 (20.8)	46 (18.2)	0 (0.0)	12 (17.9)
学生寮・学生宿舎	100 (2.7)	77 (3.1)	23 (1.8)	66 (6.6)	29 (1.4)	3 (0.9)	1 (0.4)	0 (0.0)	1 (1.5)
下宿 (食事付)	25 (0.7)	20 (0.8)	5 (0.4)	2 (0.2)	18 (0.9)	1 (0.3)	3 (1.2)	0 (0.0)	1 (1.5)
下宿 (食事無)・アパートや 間借	2,883 (76.8)	1,935 (78.7)	948 (73.3)	815 (82.1)	1,562 (74.1)	249 (76.1)	198 (78.3)	6 (100.0)	53 (79.1)
親戚・知人宅	20 (0.5)	16 (0.7)	4 (0.3)	2 (0.2)	13 (0.6)	3 (0.9)	2 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
そ の 他	21 (0.6)	13 (0.5)	8 (0.6)	2 (0.2)	13 (0.6)	3 (0.9)	3 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)
無 効	6 (0.2)	4 (0.2)	2 (0.2)	0 (0.0)	6 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
合 計	3,753 (100.0)	2,459 (100.0)	1,294 (100.0)	993 (100.0)	2,107 (100.0)	327 (100.0)	253 (100.0)	6 (100.0)	67 (100.0)

転しても同様の傾向となることが予想され、駐車場の整備や交通事故防止について、早急に対策を立てる必要があると思われる。

### 交通事故の状況

#### 1 在学中の交通事故経験の有無

##### ● 交通事故経験者は16%

本学に在学中、交通事故を経験した学生は全体で603人(16.1%)にのぼっており、特に、西条地区に移転した学部の学生の事故発生率が高くなっている。

#### 2 事故時の乗り物

##### ● 多い自動車・バイク事故

事故時の乗り物としては、「自動車に乗っていたとき」が36.2%、「バイクに乗っていたとき」が34.8%、「自転車に乗っていたとき」が28.2%であり、特に自動車、バイクによる事故の多さが目立っている。

#### 3 事故にあったときの状況

##### ● 交通事故の3割は通学途中

事故にあったときの状況として最も多いのは、「レジャー・旅行の期間中」で41.8%、次いで「通学途中」が30.7%、「アルバイト中」が14.3%、「課外活動中」が10.9%となっている。通学途中中の事故の多さは注目すべきであり、特に女子学生の事故の38.2%は通学途中中の事故である。

### 住居の状況

#### 1 住居区分 (住居形態)

● 下宿生が約8割  
今回の調査で回答のあった学生の住居区分は77.5%が「下宿・アパート」で、「自宅」は18.6%である。また、「学生寮・学生宿舎」の入居者は2.7%となっている。自宅者の割合は女子学生がやや高く、学年が高くなるに従い低くなっている。

#### 2 居住面積と付帯設備

● 広くて設備は充実  
付帯設備を除く住居の広さは8畳以上が5割で、「炊事設備がついている」が92.4%、「電話をひいている」が89.9%、「トイレがついている」が89.4%、「風呂がついている」が72.5%、「専用の駐車場が利用できる」が29.0%という状況にある。

● 学生の多くが、バス・トイレ付で炊事設備が付いている下宿・アパートに入居している状況がうかがえよう。

#### 3 学生宿舎への入居希望

● 少ない入居希望  
学生宿舎への入居を「希望する」比率は4.1%であり、「希望しない」が77.7%、「わからない」が10.0%となっている。  
西条地区に移転した学部の学生の入居希望率は、移転していない学部の学生よりやや高いが、全般的に学生宿舎に対する入居希望率

[住居の付帯設備] (ついている設備は全て回答)

(単位 人 (%) )

	全体	男女別		キャンパス別					
		男	女	西条	東千田	霞	東雲	その他	無効
炊事設備がついている	2,725 (92.4)	1,801 (90.8)	924 (95.8)	785 (95.6)	1,452 (90.4)	234 (91.4)	197 (95.6)	5 (83.3)	52 (96.3)
風呂がついている	2,139 (72.5)	1,350 (68.0)	789 (81.8)	761 (92.7)	952 (59.3)	217 (84.8)	165 (80.1)	5 (83.3)	39 (72.2)
トイレがついている	2,637 (89.4)	1,753 (88.4)	884 (91.6)	781 (95.1)	1,369 (85.2)	236 (92.2)	196 (95.1)	5 (83.3)	50 (92.6)
電話をひいている	2,651 (89.9)	1,749 (88.2)	902 (93.5)	777 (94.6)	1,382 (86.1)	240 (93.8)	195 (94.7)	4 (66.7)	53 (98.1)
専用の駐車場がある	854 (29.0)	538 (27.1)	316 (32.7)	602 (73.3)	162 (10.1)	44 (17.2)	32 (15.5)	1 (16.7)	13 (24.1)
無効	104 (3.5)	79 (4.0)	25 (2.6)	10 (1.2)	79 (4.9)	8 (3.1)	6 (2.9)	1 (16.7)	0 (0.0)
合計 (実回答人員)	2,949 (100.0)	1,984 (100.0)	965 (100.0)	821 (100.0)	1,606 (100.0)	256 (100.0)	206 (100.0)	6 (100.0)	54 (100.0)

は低い。

統合移転を進めていくに当たって、新キャンパスにどの程度の規模の学生宿舎を整備していくかは大きな問題であるが、今回の調査結果は、キャンパス周辺の下宿等の整備状況及び移転後、新入学生に対する学生宿舎をどの程度確保する必要があるかなど今後の学生宿舎の整備に当たり十分検討すべき問題を含んでいるといえよう。

● 集団生活は敬遠・設備面で不満

学生宿舎に入居したくない理由は、「集団生活は好まない」が42.4%、「風呂が部屋に無い」が41.9%、「部屋が狭い」が36.4%、「炊事設備が部屋に無い」が30.3%、「トイレが部屋に無い」が27.5%、「電話がつけられない」が23.1%となっている。

4 西条地区への移転と住居、学生生活

● 移転した学部学生の大半が東広島市に転居

西条地区への移転に伴い「転居した」学生は、教育学部が74.4%、工学部が91.4%、生物生産学部が93.0%であり、ほとんどの学生が大学の近くに転居している。

「転居しなかった」学生は全体で16.2%で、その多くは教育学部の学生である。

「転居しなかった」理由は、「自宅から通学できるから」が40.4%、「自動車、バイク、電車やバスで通学できるから」が合わせて33.5%、「卒業まで長くないから」が27.3%、「ア

ルバイトをしたいから」が29.2%、「広島地区で課外活動をしたいから」が16.1%であり、「都市に住みたいから」は22.4%、「東広島市には娯楽施設などが無いから」は14.3%となっている。

[移転に伴う転居の有無]

(単位 人 (%) )

	合計	教育学部	工学部	生物生産学部
転居した	823 (82.9)	386 (74.4)	224 (91.4)	213 (93.0)
転居しなかった	161 (16.2)	126 (24.3)	20 (8.2)	15 (6.6)
無効	9 (0.9)	7 (1.3)	1 (0.4)	1 (0.4)
合計	993 (100.0)	519 (100.0)	245 (100.0)	229 (100.0)

(転居後のアルバイト)



(今後西条地区に移転予定学部の学生の転居後のアルバイト希望)



● 転居後は3割が東広島市でアルバイトに従事

東広島市に転居した学生の転居後のアルバイトの従事状況は、「定期的に東広島地区でしている」が28.6%、「転居によりできなくなった」が21.3%で、西条地区でのアルバイト口の確保が困難となっている状況がうかがわれる。東広島市に転居後も「定期的に広島地区でしている」学生は10.6%である。

● 移転後は交通費と住居費がアップ

移転後、生活が「楽になった」と答えた学生は6.8%で、「変わらない」が31.1%、一方、「苦しくなった」と答えた学生は50.2%となっている。苦しくなった理由は、「部屋代が高くなった」が40.6%、「ガソリン代がかかりすぎる」が38.0%、「電車やバスの交通費がかかりすぎる」が32.5%と、住居費や交通費のアップを原因とするものが多い。

5 西条地区での生活の利便さ

● 今後の環境整備に期待

移転した学部の学生が不自由を感じていることは、「バスなどの交通機関が十分整備されていないこと」が58.9%で、特に、女子学生の75.6%が交通機関の不備を指摘している。次いで「娯楽施設がないこと」が52.1%、「アルバイト口がないこと」が40.8%、「本屋や学用品店などの店が少ないこと」が34.2%、「日用品の買物などが不自由なこと」が31.6%となっている。全般的に生活の不便さを指摘する意見が多い。「課外活動が十分できないこと」は18.7%である。

移転した学部の学生が、西条地区での不便さの理由として、「バスなどの交通機関が十分整備されていないこと」をあげており、交通機関の整備は重要な課題となっているが、今後移転を予定している学部の学生のうち、「バス」や「電車とバス」で通学したいと答えた学生が極めて少ないことは、現状の不便さを反映した回答とも考えられ、更に綿密に学生の意向を調べる必要がある。

〔西条地区の学生が不自由に感じていること〕  
〔3つ以内で回答〕 (単位 人(%))

	全体	男	女
バスなどの交通機関が十分整備されていないこと	585 (58.9)	278 (47.4)	307 (75.6)
駐車場がないこと	68 (6.8)	57 (9.7)	11 (2.7)
日用品の買物が不便なこと	314 (31.6)	174 (29.6)	140 (34.5)
本屋や学用品店などの店が少ないこと	340 (34.2)	181 (30.8)	159 (39.2)
娯楽施設がないこと	517 (52.1)	342 (58.3)	175 (43.1)
アルバイト口がないこと	405 (40.8)	242 (41.2)	163 (40.1)
食堂が近くにないこと	251 (25.3)	182 (31.0)	69 (17.0)
課外活動が十分できないこと	186 (18.7)	106 (18.1)	80 (19.7)
その他	56 (5.6)	32 (5.5)	24 (5.9)
無効	19 (1.9)	15 (2.6)	4 (1.0)
合計(実回答人員)	993 (100.0)	587 (100.0)	406 (100.0)

6 移転予定学部の学生の移転への対応

● 移転後は6割が転居希望

移転後の住居については、「大学の近くに転居したい」が58.8%、「今のままでよい」が12.6%、「広島市内及びその周辺で通学の便利なところに転居したい」が5.8%となっている。

「転居したくない理由」として多いのは、「自宅から通学できるから」が29.0%、「卒業までそう長くないから」が26.0%、「都市に住みたいから」が18.4%、「アルバイトをしたいから」が17.2%などとなっている。

● 住居を決めるに当たって重視すること

移転後の新しい住居を決めるに当たって重視することは、男女・年次別とも「部屋に風呂があること」で、全体では53.7%になっている。銭湯が近くに無いことも一因であろうが、朝シャワーを利用することが多くなったといわれる若者気質をも反映しているものといえよう。次いで「部屋代が安いこと」が44.6%、「部屋にトイレがあること」が34.9%、「大学に近いこと」が34.8%、「炊事設備がついていること」が28.5%、「部屋が広いこと」が27.3%の順となっている。



● 東広島市でのアルバイト口の確保が課題  
 移転後、アルバイトを「東広島市内で定期的にしたい」という学生は46.1%にのぼっている。これらの学生にとって、東広島市内にどの程度希望するアルバイト口があるかは大きな関心事である。

転居に伴い、アルバイトは「止めたい」、「定期的には無理だ」、「するつもりはない」と答えた学生は全体で16.0%おり、「広島市内で定期的にしたい」と希望する学生は10.0%である。

● 3割が自動車通学を希望

移転後の通学方法として、男性の33.2%、女性の21.2%が「自動車通学したい」と答えている。「バイクで通学したい」については男性が23.6%、女性が11.9%、「自転車通学したい」については男性が13.6%、女性が25.4%となっており、「バスで通学したい」や「電車とバスで通学したい」と答えた学生は全体のわずかに4.2%である。

「バスで通学したい」や「電車とバスで通学したい」と答えた学生が極めて少ないことは、今後の交通機関の整備を考えるに当たって注目すべき内容といえよう。

また、「わからない」、「無効」の学生も26.3%おり、これらの学生が移転に当たってどのような対応をするか、十分注意して見守っていく必要がある。

〔移転後の通学方法〕 (単位:人(%) )

	全 体	男	女
できれば徒歩で通学したい	68 (2.9)	45 (2.8)	23 (3.0)
自転車通学したい	411 (17.4)	218 (13.6)	193 (25.4)
バイクで通学したい	470 (19.9)	380 (23.6)	90 (11.9)
自動車通学したい	695 (29.4)	534 (33.2)	161 (21.2)
バスで通学したい	18 (0.8)	5 (0.3)	13 (1.7)
バスと電車で通学したい	81 (3.4)	31 (1.9)	50 (6.6)
わからない	140 (5.9)	78 (4.9)	62 (8.2)
無 効	483 (20.4)	316 (19.7)	167 (22.0)
合 計	2,366 (100.0)	1,607 (100.0)	759 (100.0)

収入と支出

1 収入

● 仕送り額は10万円が標準  
 家庭からの仕送り額は1か月平均「7～10万円未満」が最も多く32.1%であり、「10～13万円未満」が22.9%、「5～7万円未満」が13.7%、「5万円未満」が12.9%となっている。

● 奨学金収入—受給者の7割は3～4万円  
 奨学金を受給している者は全体の約3割で1か月の平均受給額は「3～4万円未満」が18.7%で最も多く、受給者全体の7割となっている。

● アルバイト収入—従事者の4割近くが2～4万円  
 この1か月(平成2年6月)にアルバイトをした学生は全体の約7割で、平均収入額は「2～4万円未満」が最も多く24.1%となっている。「アルバイト収入はない」という学生は31.4%である。

● 1か月の平均収入は10～15万円が4割  
 学生の1か月(平成2年6月)の平均収入は「10～15万円未満」が最も多く42.7%であり、次いで「7～10万円未満」が24.0%、「5～7万円未満」が8.3%、「3～5万円未満」が6.2%、「3万円未満」が5.3%であり、「15万円以上」も10.2%いる。

2 支出

● 下宿生の7割近くが食費は2～4万円  
 1か月の食事代は、「2～3万円未満」が最も多く35.5%であり、「3～4万円未満」が29.4%、「2万円未満」が17.8%、「4～5万円未満」が6.1%となっている。

● 住居費は4万円前後  
 1か月の住居費は、「3～4万円未満」が22.7%であり、「4～5万円未満」が22.2%、「2～3万円未満」が15.3%、「5～7万円未満」が10.7%、「2万円未満」が9.6%となっている。

キャンパス別にみると、西条地区が「3～4万円未満」の比率が多く、多くの物件が「3～5万円未満」に集中している傾向がうかが

える

- 西条地区学生の交通費は1万円以上が4割

1か月の交通費は、「3千円未満」が最も多く29.8%となっている。一方、「1万円以上」も17.5%あり、特に西条地区では「1万円以上」が38.9%となっており、移転により交通費が高くなっている現状を示している。

- 修学費は5千円未満が6割

図書費等の修学費は「3千円未満」が32.5%あり、「3～5千円未満」が25.4%、「必要ない」も9.2%いる。

- 課外活動費は5千円未満が4割

課外活動費は「3千円未満」が26.5%であり、「3～5千円未満」が12.1%、「必要ない」も32.5%いる。

- 1か月の平均支出は10万円前後が6割

学生の1か月の平均支出は「7～10万円未満」が最も多く34.1%であり、次いで「10～15万円未満」が31.4%、「5～7万円未満」が12.5%、「3～5万円未満」が9.2%、「3万円未満」が7.8%となっている。収入の合計と比較すると堅実な学生生活を過ごしているといえよう。

## アルバイトと奨学金

### 1 アルバイトの従事状況等

- 7割の学生がアルバイトに従事

この1か月間（平成2年6月）にアルバイトに従事した学生は、「定期的にした」が48.6%、「臨時的にした」が12.0%、「定期的にも臨時的にもした」が6.5%で、アルバイトに従事した学生は全体で67.1%となっている。一方、「希望したができなかった」学生は3.7%、「しなかった」学生は29.1%である。

- 6割が家庭教師・塾講師

アルバイトの内容は「家庭教師・塾講師」が56.5%で、「軽労働」が18.4%で、「食堂・喫茶店のボーイ・ウエイトレス」が12.8%となっている。

- アルバイト口は先輩・友人の口コミで入手

アルバイト口は、「本学の先輩・友人」からの紹介が最も多く、37.9%となっている。

「本学以外の先輩・友人」の紹介の10.6%を合わせれば、いわゆる口コミでアルバイトを得ている状況がうかがわれる。次いで「学生部・学部の事務室」が16.6%、「新聞や情報紙」が13.8%、「内外学生センター」が10.8%となっている。

- 西条地区の学生の3割が広島市内でアルバイト

西条地区に移転した学部の学生のアルバイト先の所在地は、「東広島市内が中心」が47.5%、「広島市内が中心」が31.3%である。

- 目的は交際費や娯楽費が7割

アルバイトの目的や必要性で最も多く回答があったのは、「交際費や娯楽費を得るため」で67.8%、次いで「生活費を得るため」が43.8%、「旅行やレジャー費用を得るため」が34.7%、「社会経験をつむため」が28.2%となっている。

### 2 奨学金の受給状況

- 受給者は3割

奨学金の受給者は「日本育英会の奨学金」が22.4%、「地方公共団体の奨学金」が1.9%、「民間団体の奨学金」2.5%となっており、学生全体に占める奨学金の受給者の割合は26.8%である。

## サークル活動の状況

### 1 加入状況

- 加入者は6割で体育系が中心

サークル活動に加入している学生は、全体の約6割で、最も加入者が多いのでは「体育系サークル」で37.2%、次いで「音楽・芸能・演劇系サークル」が12.6%となっている。

### 2 サークル活動加入の動機

- 大学生活を楽しみ、友人を得たい

サークル活動加入の動機は、「大学生活を楽しみたい」が51.8%で最も多く、次いで「友人を得たい」が49.0%、「趣味と一致している」が40.9%、「余暇を活用したい」が24.1%、「健康増進のため」が19.0%などとなってい

	全 体	男 女 別		学 年 別			
		男	女	1 年	2 年	3 年	4 年
自宅に近いから	712(19.0)	434(17.6)	278(21.5)	125(18.5)	178(20.2)	225(18.2)	184(19.2)
親や親戚が勧めたから	284(7.6)	164(6.7)	120(9.3)	41(6.1)	65(7.4)	106(8.6)	72(7.5)
教師の勧めや進路指導により決めた	541(14.4)	303(12.3)	238(18.4)	113(16.7)	119(13.5)	175(14.2)	134(14.0)
先輩や友人が勧めたから	44(1.2)	27(1.1)	17(1.3)	3(0.4)	16(1.8)	12(1.0)	13(1.4)
自分の能力・適性に合致していると思ったから	1,419(37.8)	928(37.7)	491(37.9)	283(41.9)	300(34.0)	425(34.4)	411(42.8)
専攻したい学部・学科があったから	1,694(45.1)	1,008(41.0)	686(53.0)	306(45.3)	355(40.2)	504(40.8)	529(55.1)
就職など将来を考えて選んだ	899(24.0)	533(21.7)	366(28.3)	153(22.6)	211(23.9)	297(24.0)	238(24.8)
共通一次試験の結果を考慮して決めた	1,263(33.7)	927(37.7)	336(26.0)	291(43.0)	388(44.0)	461(37.3)	123(12.8)
国立大学だから	2,210(58.9)	1,477(60.1)	733(56.6)	380(56.2)	520(59.0)	759(61.5)	551(57.4)
公開説明会・受験相談会に参加して	34(0.9)	23(0.9)	11(0.9)	7(1.0)	11(1.2)	12(1.0)	4(0.4)
その他	386(10.3)	305(12.4)	81(6.3)	57(8.4)	87(9.9)	139(11.3)	103(10.7)
無効	7(0.2)	4(0.2)	3(0.2)	1(0.1)	2(0.2)	1(0.1)	3(0.3)
合 計	3,753(100.0)	2,459(100.0)	1,294(100.0)	696(100.0)	882(100.0)	1,235(100.0)	960(100.0)

る。

「西条地区に移転して継続が困難になった」と答えた学生は7.5%である。

● サークル活動の主たるキャンパス

西条地区の学生で、サークル活動の主たるキャンパスが東千田地区と答えた学生は42.9%である。キャンパス移動中の交通事故等の問題など統合移転が学生生活に与える影響は大きい。

[所属キャンパスとサークル活動を行っているキャンパス] [単位 人(%)]

所属キャンパス	サークル活動の主たるキャンパス					
	合計	西 条	東千田	霞	東 雲	その他
西 条	529 (100.0)	201 (38.0)	227 (42.9)	0 (0.0)	20 (3.8)	81 (15.3)
東 千 田	1,329 (100.0)	33 (2.5)	898 (67.6)	61 (4.6)	58 (4.4)	279 (21.0)
霞	219 (100.0)	3 (1.4)	41 (18.7)	120 (54.8)	4 (1.8)	51 (23.3)
東 雲	163 (100.0)	0 (0.0)	58 (35.6)	1 (0.6)	80 (49.1)	24 (14.7)
その他・無効	43 (100.0)	6 (14.0)	24 (55.8)	2 (4.7)	1 (2.3)	10 (23.3)
合 計	2,283 (100.0)	243 (10.6)	1,248 (54.7)	184 (8.1)	163 (7.1)	445 (19.5)

(注) 所属キャンパスが不明の43名を除く。

学生生活や将来に関すること

1 入学の動機

● 専攻や自分の能力適性を重視

本学へ入学した動機として、第1順位にあげた項目の中で最も多かったのは、「専攻したい学部・学科があったから」で21.0%、次

いで「自分の能力や適性に合致していると思ったから」が20.2%となっている。順位を別にして最も多かったのは、「国立大学だから」が58.9%、次いで「専攻したい学部・学科があったから」が45.1%、「自分の能力・適性に合致していると思ったから」が37.8%となっており、「共通一次試験の結果を考慮して決めた」は33.7%、「就職など将来を考えて選んだ」は24.0%となっている。

2 所属する学部・学科の満足度と不満の理由

● 3割近い学生が不満

「満足してる」が25.0%、「普通である」が47.4%で、7割以上の学生がおおむね現状に不満無く生活している。一方、「やや不満である」は19.4%、「大変不満である」は7.3%である。不満を感じている理由は、「自分の期待した専門分野の内容とは違っていた」が26.9%、「講義がつまらない」が28.1%、「施設設備が不十分である」が13.6%、「将来就職したい分野と違う」が10.1%、「授業についていけない」が7.8%である。

3 転学部・学科、他大学への再受験

● 進路変更を考えた学生は3割

本学へ入学後、転学部・学科、他大学への再受験を「考えたことがある」学生は29.9%で、「考えたことはない」が64.9%となっている。



入学の動機別に見ると、専攻や自分の能力適性、将来の進路など目的意識をしっかりと持って入学してきたかどうかが大きく影響しているものと思われる。

#### 4 悩みごと

##### ● 頭痛の種は成績・進路に就職問題

学生の悩みごとは、「成績・単位のこと」が32.5%、「就職問題」が32.1%、「進学・進路のこと」が27.6%、「人生の目的や意義」が19.2%、「異性・恋愛」が19.2%などとなっている。

女性では「就職問題」(42.8%)、男性では「成績・単位のこと」(38.3%)に悩んでいる学生が多い。

#### 5 免許証や車の所有状況

##### ● 西条地区は5割の学生が自動車を所有

普通自動車の免許を持っている学生は60.4%で、学年が高くなるに従い所有率は高くなり、4年次生では84.7%の学生が免許証を持っている。自分専用の自動車を持っている学生も22.2%おり、特に、西条地区の学生の所有率が高い。

#### 6 大学生生活の満足度

##### ● 目的意識や主体性の有無が満足度に反映

「大変満足している」が6.7%、「まあまあ満足している」が38.0%、「普通である」が35.5%となっている。これに対し、「やや不満である」は15.1%、「大変不満である」は4.2%で、不満を感じている学生は2割にのぼっている。

入学の動機別に不満を感じている理由をみると、自分の興味・関心や能力適性を自覚し、しっかりと将来まで考えて入学した学生ほど大学生生活の満足度が高い傾向がみられる。

#### 7 将来理想とする暮らし

##### ● 専門を活かし、趣味にあった生活

将来理想とする暮らしとして、「自分の趣味にあった暮らしをしたい」と答えた学生が48.0%、「のんびり暮らしたい」が29.7%、「仕事よりも家庭生活を大切にしたい」が24.6%と「趣味派」、「家庭重視派」の比率が高い。これに対して、「国家や地域社会のために尽くしたい」と答えた学生は2.7%、「地位や名誉、財産を得たい」は12.6%となっている。また、「自分の専門分野を活かした仕事をしたい」と答えた学生は46.9%である。

#### 8 卒業後、就職したい分野

##### ● 教育・研究職を5割が希望

学部によって異なるが、卒業後就職したい分野は、「教育・研究職」が46.6%と最も高い。女性は特に「教育・研究職」を希望する比率が高く55.5%となっており、「公務員」は20.6%、「マスコミ・出版」は15.8%と続いている。男性では「教育・研究職」が41.9%、「製造業」が19.1%、「公務員」が18.7%で、男女とも「情報産業」が11.9%となっている。

#### 9 就職に当たって重視する内容

##### ● 女性ほどやりがいを重視

就職に当たって第1順位として重視することは、「やりがいがあること」で44.6%、次いで「給料が高い」が25.2%、「将来性がある」が11.6%となっている。

順位を別として重視する項目で最も多いのは「やりがいがあること」が76.9%となっ

【入学の動機や学部・学科の満足度と転学部・学科、他大学への再入学】  
[単位：人(%)]

入学の動機や学部・学科の満足度	合計	考えたことがある	考えたことはない	無効
自宅に近いから	712 (100.0)	216 (30.3)	462 (64.9)	34 (4.8)
親や親戚が勧めたから	284 (100.0)	105 (37.0)	161 (56.7)	18 (6.3)
教師の勧めや進路指導により決めた	541 (100.0)	179 (33.1)	330 (61.0)	32 (5.9)
先輩や友人が勧めたから	44 (100.0)	15 (34.1)	26 (59.1)	3 (6.8)
自分の能力・適性に合致していると思ったから	1,419 (100.0)	293 (26.6)	1,050 (74.0)	76 (5.4)
専攻したい学部・学科があったから	1,694 (100.0)	352 (20.8)	1,247 (73.6)	95 (5.6)
就職など将来を考えて選んだ	899 (100.0)	218 (24.2)	635 (70.6)	46 (5.1)
共通一次試験の結果を考慮して決めた	1,263 (100.0)	506 (40.1)	695 (55.0)	62 (4.9)
国立大学だから	2,210 (100.0)	680 (30.8)	1,413 (63.9)	117 (5.3)
公開説明会・受験相談会に参加して	34 (100.0)	13 (38.2)	20 (58.8)	1 (2.9)
その他	386 (100.0)	190 (49.2)	180 (46.6)	16 (4.1)
無効	7 (100.0)	4 (57.1)	2 (28.6)	1 (14.3)
合計	3,753 (100.0)	1,121 (29.9)	2,436 (64.9)	196 (5.2)

[入学の動機や学部・学科の満足度と大学生生活の満足度]

[単位 人(%)]

大学生生活の満足度		合 計	大変満足 している	まあまあ満 足している	普通である	やや不満 である	大変不満 である	無 効
入学の動機や学部・学科の満足度								
入 学 の 動 機	自宅に近いから	712 (100.0)	51 (7.2)	264 (37.1)	273 (38.3)	92 (12.9)	30 (4.2)	2 (0.3)
	親や親戚が勧めたから	284 (100.0)	22 (7.7)	105 (37.0)	93 (32.7)	48 (16.9)	15 (5.3)	1 (0.4)
	教師の勧めや進路指導により決めた	541 (100.0)	38 (7.0)	216 (39.9)	174 (32.2)	89 (16.5)	20 (3.7)	4 (0.7)
	先輩や友人が勧めたから	44 (100.0)	3 (6.8)	19 (43.2)	15 (34.1)	4 (9.1)	3 (6.8)	0 (0.0)
	自分の能力・適性に合致していると思ったから	1,419 (100.0)	113 (8.0)	612 (43.1)	469 (35.0)	161 (11.3)	32 (2.3)	5 (0.4)
	専攻したい学部・学科があったから	1,694 (100.0)	139 (8.2)	747 (44.1)	553 (32.6)	215 (12.7)	32 (1.9)	8 (0.5)
	就職など将来を考えて選んだ	899 (100.0)	94 (10.5)	376 (41.8)	295 (32.8)	111 (12.3)	20 (2.2)	3 (0.3)
	共通一次試験の結果を考慮して決めた	1,263 (100.0)	57 (4.5)	420 (33.3)	479 (37.9)	219 (17.3)	82 (6.5)	6 (0.5)
	国立大学だから	2,210 (100.0)	126 (5.7)	827 (37.4)	799 (36.2)	354 (16.0)	97 (4.4)	7 (0.3)
	公開説明会・受験相談会に参加して	34 (100.0)	3 (8.8)	13 (38.2)	12 (35.3)	5 (14.7)	1 (2.9)	0 (0.0)
その他	386 (100.0)	11 (2.8)	107 (27.7)	136 (35.2)	90 (23.3)	40 (10.4)	2 (0.5)	
無 効	7 (100.0)	1 (14.3)	2 (28.6)	2 (28.6)	1 (14.3)	0 (0.0)	1 (14.3)	
合 計	3,753 (100.0)	253 (6.7)	1,426 (38.0)	1,332 (35.5)	568 (15.1)	158 (4.2)	16 (0.4)	

おり、女性では8割以上が「やりがいがあること」をあげている。次いで「給料が高い」が45.0%、「専門が活かせる」が42.9%、「将来性がある」が34.7%、「休暇が多くて福利施設が充実している」が25.9%となっている。

[就職に当たって重視する項目](3つ以内で回答)[単位 人(%)]

	全 体	男	女
給料が高い	1,687 (45.0)	1,236 (50.3)	451 (34.9)
将来性がある	1,301 (34.7)	919 (37.4)	382 (29.5)
やりがいがある	2,886 (76.9)	1,829 (74.4)	1,057 (81.7)
有名企業である	252 (6.7)	186 (7.6)	66 (5.1)
専門が活かせる	1,609 (42.9)	951 (38.7)	658 (50.9)
休暇が多く福利施設が充実	972 (25.9)	645 (26.2)	327 (25.3)
自宅から近い	331 (8.8)	170 (6.9)	161 (12.4)
景気に左右されない	646 (17.2)	427 (17.4)	219 (16.9)
その他	227 (6.0)	154 (6.3)	73 (5.6)
無 効	16 (0.4)	10 (0.4)	6 (0.5)
合計(実回答人員)	3,753 (100.0)	2,459 (100.0)	1,294 (100.0)

## 健康や食生活に関すること

### 1 健康状態

#### ● 良好・普通が9割

健康状態は「良好である」が43.4%、「普通である」が43.9%となっている。「あまり良くない」は12.4%である。

### 2 喫煙と飲酒

#### ● 喫煙・飲酒は9年前に比べ減少

煙草を吸っていない学生は8割で、女子学生は97.4%が吸っていない。逆に、1日20本以上吸っている学生は10.4%となっている。

お酒については、「ほとんど毎日飲む」と答えた学生が3.8%、「まったく飲まない」が11.1%で、「ほとんど飲まないがコンパやゼミの会合のときのみ」飲む機会があるが66.6%となっている。

9年前に行った保健管理センターの調査と比較すると、「喫煙」については女子の比率は変わらないが、男子については5%吸わない学生が増えている。

「飲酒」についても、週当たりの飲む頻度では、男子学生の比率は大きく減少している。

### 3 食生活と学内食堂の利用状況

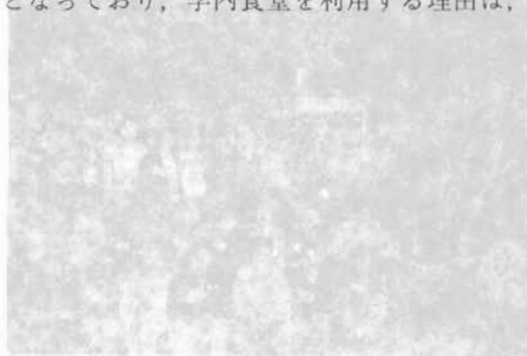
#### ● 男子学生の5割は朝食抜き

朝食をとらない学生は37.5%で、特に、男子学生の48.2%が朝食を食べていないと答えている。このことは、学生の健康を考える上で重要な問題である。

学内食堂・喫茶の利用状況は、「よく利用する」が59.2%、「時々利用する」が24.9%となっており、学内食堂を利用する理由は、

「安いから」が63.7%、「近いから」が59.5%となっている。

学内食堂に期待する内容は、「メニューを多くしてほしい」が46.3%、「もっと安くしてほしい」36.5%、「待ち時間を減らしてほしい」が29.1%、「味つけに工夫をしてほしい」が28.3%、「量を多くしてほしい」が24.8%となっている。



学食利用の理由として「安いから」が最も多く、次に「近いから」が挙げられている。学食に期待する内容としては「メニューを多くしてほしい」が最も多く、次に「もっと安くしてほしい」が挙げられている。また、「待ち時間を減らしてほしい」と「味つけに工夫をしてほしい」も多くの学生から期待されている。学食の利用状況は、学生の生活リズムや健康意識と関係していると考えられる。朝食を摂らない学生が多いことは、健康上の懸念がある。学食の利用を促進し、朝食の摂取を促すための取り組みが必要である。

学食の利用状況は、学生の生活リズムや健康意識と関係していると考えられる。朝食を摂らない学生が多いことは、健康上の懸念がある。学食の利用を促進し、朝食の摂取を促すための取り組みが必要である。学食に期待する内容としては、メニューの充実や価格の引き下げ、待ち時間の短縮などが挙げられている。学食の運営側は、学生のニーズに応じたサービスを提供し、学食の利用率を向上させる必要がある。